

7月28日、西尾産「三河梨」出荷開始 8月上旬のピークには1日15トンを出荷

JA西三河は7月28日より、JA西三河小牧センターで、市内産のブランド梨「三河梨」の選果・出荷をスタートします。

市内で最も生産量の多い「幸水」が出荷ピークとなる8月10日頃が最盛期で、一日におよそ3,000ケース（1ケース5キロ）・約15トンの出荷を見込んでいます。

今年は春先の気温が平年よりも高く、梨の生育が進みました。病害虫の発生も少なく、大玉傾向で品質の高い梨が収穫できる見込みです。



梨の選果風景（小牧センター）

【JA西三河梨部会 概要】

部会員数：74人 のべ生産面積：約20㍍

生産量：約250トン（概算）

出荷先：主に愛知県内の市場

主な出荷品種と時期（量はJAへの出荷のみ）：

「幸水」（120トン、7月末～8月上旬）

「豊水」（70トン、8月下旬～9月中旬）

「あきづき」（5トン、9月中下旬）

「新高」（5トン、9月下旬～10月上旬）



6月の袋掛け作業と収穫直前の梨

■西尾の梨生産の特徴■

西尾の梨は、梨ひとつひとつに袋をかける有袋栽培をしているのが特徴です。産地全体で有袋栽培を行っているのは三河地域では西尾市だけ。6月ごろに袋掛けされた梨は、収穫まで袋の中で大切に育てます。袋掛けにより果皮を美しく仕上げ、病害虫の被害を防ぐとともに、農薬の使用量・回数を抑えることができます。

■選果・出荷風景 取材対応日■

【日時】7月28日（木） 午前8時30分開始

【集合】JA西三河 小牧センター

（西尾市吉良町小牧梶見堂3 電話：0563-35-0246）

※取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の岡田までご連絡ください。